

新年のご挨拶

新年あけまして おめでとうございます。

昨年1月1日に、多くの方々のご協力のもと全職員が力を結集して新病院をオープンさせていただいてから、あっという間に1年が経過いたしました。さいたま赤十字病院 80 有余年の歴史の中で、第2章ともいべき新たな1ページを刻めましたこと、これも一重に皆様方のご支援の賜物と深く感謝を申し上げます。



今後も当院が進むべき方向性は

患者さんにも地域の医療機関にも親しまれる病院であり続けることです。

さて、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年に向けてさいたま医療圏における医療提供体制がどうあるべきか、地域医療構想が協議策定中であることはご承知のことと思います。昨年の「ご挨拶」で、救命救急医療や周産期医療、がん診療など高度急性期・急性期医療により特化した質の高い医療を提供し、患者さんにも地域の医療機関にも親しまれる病院であり続けることが地域における当院の役割であると強調させていただきましたが、今後も当院が進むべき方向性は変わりませんし、また変えるべきではないと考えています。

ご存知のように年間出生数は、すでに 100 万人を割り込んでいます。一方、年間死亡者数は、130 万人

を超えており多死社会を迎えるとともに日本の人口が減少に転じていることも周知の事実です。このため一人のお年寄りを大人数で支えられた時代から、一人のお年寄りを一人で支えなければならない社会がすぐそこまでやってきているといわれています。

そこで、国家財政がひっ迫している状況において限られた医療資源を効率的かつ効果的に活用し、より良質な医療サービスが受けられる体制を作ることが喫緊の課題とされ医療法改正によって地域医療構想の策定が進められることになりました。各医療機関が地域においてどのようなニーズがあるのかを見極めたうえで、実績を裏付けとした自院の目指す医療の方向性を明確にすることが求められています。



本院が目指す医療の基本方針は

**多くの救急患者さんの受入れ、本院でしか治療できない患者さんの診療
そして地域の医療機関との連携です。**

ところで、埼玉県全体の人口は減少し高齢化が急速に進むと予測されていますが、さいたま市では高齢化率は急激に上昇するものの、人口減少は緩やかで当面大幅な変化はないとされています。したがって、さいたま区域では医療需要が増加すると見込まれ、特にがんや心筋梗塞、脳卒中、肺炎、大腿骨頸部骨折など高齢化と関連の深いこれら疾患はますます増えてくるだろうと予測されています。

そこで、高度急性期・急性期医療に特化した医療、多くの救急患者さんの受入れや本院でしか治療できない患者さんの診療、そして地域の医療機関との連携が本院が目指す医療の基本方針であり、これらの実践により信頼される医療を提供することが理念だと考えています。

そのため、高度救命救急センターや、総合周産期母子医療センターの充実を図ってまいりましたし、地域医療支援病院としての役割も果たしてきました。また、地域がん診療連携拠点病院として良質ながん医療が提供できる体制も整え、多くのがん患者さんの治療も行っています。DPC病院群制度では大学病院並みに診療密度の濃いII群病院として評価され、一般病院としては県内唯一これを維持してまいりました。臨床研修指定病院として初期臨床研修医の指導・育成にも努めているところです。さらに、災害拠点病院としては4班の救護班と、DMAT 3チームを配備するほか、震災時ノダウン化にも対応して災害時医療が提供できる体制も整えています。その他、さいたま医療圏における中核病院として様々な疾患に対応できる診療体制を整備してきました。何と云っても、高齢化に伴い増加している複雑な病態を持った患者さんに、複数の診療科が協力して幅広く対応できることが本院の強みだと考えています。

したがって、今後も救命救急医療、周産期医療、がん診療など5疾病5事業を中心とした高度急性期により特化した医療機能を展開してまいります。本院でしか治療できない患者さんを重点的に診療するためには、他医療施設との前方連携のみならず後方連携をさらに推進することも肝要です。安定的に入院病床を確保するうえにおいても医療連携は不可欠で、ICTによる地域医療連携ネットワークの構築も積極的に進めてまいります。



以上、さいたま医療圏の地域医療構想における本院の立ち位置と機能、役割について説明をさせていただきました。皆様には是非ともご理解を賜り本院の提供する医療サービスを有効にご活用いただきますようお願い申し上げます。

院長 安藤 昭彦



心臓血管外科

しんぞうけっかんげか

経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) を開始しました



部長
森田 英幹

心臓血管外科は、おもに、

- 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
- 弁膜症（大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症）
- 大動脈疾患（大動脈瘤、大動脈解離）
- 末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤）

について診療、手術を行っています。

● 開胸による弁置換術が耐えられない方も、今後は治療が受けられるように

新病院では、ハイブリッド手術室を装備しました。ハイブリッド手術室とは、手術室に血管造影装置を設置したもので、開胸や開腹手術を行いながら、血管造影ができるようになります。それにより、当院では、以前から行ってきた大動脈瘤に対するステントグラフト治療に加え、TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）を開始しました。大動脈弁狭窄症の患者さんに、人工弁を折りたたんで小さくしたものを足のつけ根の血管から、レントゲンを見ながら心臓まで運び、そこでバルーン（風船）で広げて留置します。この手術を行うためには、厳しい施設基準があり、当院は平成29年6月に全国で119番目（県内で4番目）に認定されました。循環器内科医、麻酔科医、臨床工学技士、放射線技師、看護師とハートチームを作り、チームで治療方針の決定から、手術までを行います。この治療は、高齢で通常の開胸による弁置換術が耐えられない方が対象となり、今まで手術が難しかった方も、今後は受けられるようになります。

● 高齢化社会において、できるだけ体の負担が少ない手技が重要になってきます

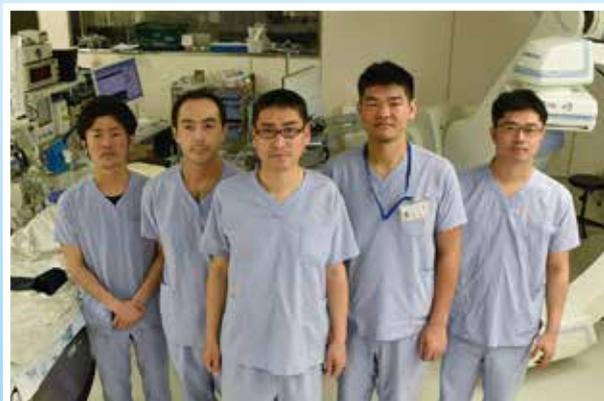
今日の高齢化社会において、心臓手術を受ける患者さんも高齢化がすすんでいます。開胸による手術の際も、できるだけ体の負担が少ない手技が重要になってきます。冠動脈バイパス術は、心臓を止めずに行うオフポンプ冠動脈バイパス術を全例に行っています。また、僧帽弁や大動脈弁の弁膜症については、わきの下を7~8cmだけ切開して、弁形成術や弁置換術を行う低侵襲小切開心臓手術（MICS）を高齢者に対しても積極的に行っています。

下肢静脈瘤については、局所麻酔下で、血管内焼灼術（ラジオ波治療）を行っており、日帰り手術も始めました。

● 24時間365日体制で行える準備

緊急手術も対応し、24時間365日体制で行えるよう準備しています。急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などは、死亡率が非常に高く、1分1秒でも早く手術を行わなければ、救命率が下がってしまいます。

他の病院で手術を断られてしまった方も、当院では可能な場合もありますので、ぜひご相談ください。当院で手術をご希望の方も、かかりつけの医師に相談の上、心臓血管外科の外来を受診してください。





総合周産期母子医療センター



■ 産婦人科では周産期医療を中心に診療を行っています。

当科は現在 13 名の常勤医で診療にあたっています。周産期医療を中心に、婦人科良性・悪性腫瘍の治療も行っています。基本的にガイドラインに沿った標準治療を心がけています。また治療方針の決定においては最新の医学知見を用いて根拠に基づく医療を心がけています。

平成 28 年の診療実績

- 分娩数 …………… 952 件
- 帝王切開術 …… 237 件
- 婦人科開腹手術 … 271 件
- 腹腔鏡手術 ……… 38 件

■ 総合周産期母子医療センターの役割 (産婦人科)

当院産科は平成 29 年 1 月 1 日、さいたま新都心に新病院移転後、隣接した埼玉県立小児医療センターの新生児科部門と連携し、埼玉県内で 2 番目となる総合周産期母子医療センターとして認可を受け稼働開始しました。総合周産期母子医療センターとは、母体・胎児集中治療管理室 (MFICU) を含む産科病棟と新生児集中治療管理室 (NICU) を含む新生児病棟を有し、母体と新生児の搬送を常時受け入れ、高度な周産期医療を行う施設です。当院では MFICU を 9 床 (現在は 6 床稼働)、NICU3 床、県立小児医療センターでは NICU を 30 床有しています。妊娠高血圧などの母体産科合併症をはじめ、早産に関しては妊娠 22 週からの超早産期から、双胎 (2 胎)・品胎 (3 胎)・要胎 (4 胎) などの多胎妊娠の管理もしています。母体搬送は埼玉県内の産科医療施設からの依頼を受け、平成 29 年 1 月 1

から 8 月 31 日現在の間で、問い合わせ 141 件、応需 105 件でした。搬送された症例 105 例中、64 例が妊娠 20 週台であり、当センターが埼玉県内の周産期医療の重要な役割を担っていることを実感し、その責任の重さを感じております。

また、小児病院の特徴を生かした胎児疾患の診療が始まりました。当院産科で胎児期の診断、妊娠・分娩管理を行い、小児医療センターの新生児・外科的・内科的な治療を行うという流れが出来上がりました。当院産科・小児科、県立小児新生児科・循環器内科・外科系科・放射線科と定期的にカンファレンスを開き、症例検討をしています。

今後も埼玉県の周産期医療の中心となれるよう医局員一同、切磋琢磨していきますので、患者さんご紹介のほどよろしくお願いいたします。

産婦人科部長 中村 学

■ 総合周産期母子医療センターの役割 (小児科)

現在小児科は常勤医師 3 名に加え、非常勤医師数名とで、外来診療、病児保育室、NICU・GCU を担当しています。外来診療はアレルギー外来や新生児フォローアップ外来、エコー外来などの特殊外来も行うようになりました。また平成 29 年 3 月からはさいたま市の委託事業の一環として、病児保育室の運営に携わることになりました。

一方、一般小児の入院に関しては、まだ入院患者を受け入れる体制が整っていないのが現状です。安全な環境で、治療と看護を行うことが必須なため、現在は医師の確保と看護師の教育に努めています。

新病院移転後にもっとも時間と労力を費やしているのが、NICU・GCU の運営です。埼玉県ではこれまで周産期医療の一部を関東周辺、特に東京に頼らなければならない状況にありました。平成 29 年 1 月に総合周産期母子医療センターの認定を受け、当院でも NICU3 床、GCU3 床 (現在は 6 床) を開棟しました。NICU3 床に関しては、埼玉県立小児医療センターと連携をしながら、今までよりも重症度の高い新生児の治療に携わりたいと考えています。

今後は小児科常勤医師の増員とともに、看護スタッフの協力を得ながら、より充実した小児医療にむけ体制を整えていきたいと思ひます。

小児科部長 佐藤 有子



ここを癒す カルテット



新病院移転後、初の院内コンサートを開催しました

さいたま赤十字病院では「病気やけがと向き合っている患者さんのこころの励みになれば」という思いを込めて、定期的に院内コンサートを開催しておりますが、昨年5月30日（火）午後1時より2階多目的ホールにおいて、日本フィルハーモニー交響楽団による弦楽四重奏「ソニック訪問コンサート2017 in さいたま赤十字病院」を開催しました。

新病院に移転してから、初となる今回のコンサートは、公益財団法人埼玉県産業文化センター（ソニックシティ）との共同主催により開かれたもので、当日の会場は、開演を心待ちにしていた患者さんをはじめ、付き添いやお見舞いの方など約180名の聴衆で埋め尽くされました。

クラシックから映画・放送音楽、一緒に歌って楽しめる曲など、弦楽四重奏が奏でる幅広いジャンルのメロディーの数々に、目を閉じ、耳を研ぎ澄ませ、感動のあまり涙する姿も見受けられるなど、皆様一心に聴き入っている様子でした。



出演者

ヴァイオリン

服部 奈々
龍野 満理絵

ヴィオラ

池田 開渡

チェロ

薄井 信介

曲目

1. アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章より (モーツァルト)
2. ロンドンデリーの歌 (アイルランド民謡)
3. 愛の喜び (クライスラー) 他

最後は、会場が一体となって手拍子をしながら演奏を楽しんでいただき、開演前よりも明るく元気な表情になられた方が多数見受けられました。

患者さんからは

一流の方々による生演奏を間近で聴けて感動しました！

弦楽器の美しい音色に心が癒されました！

などという声が多数寄せられました。

患者さんには、病院での時間を少しでも明るい気持ちで過ごしていただけるよう、当院ではこのようなコンサートをこれからも企画、開催してまいります。

医療社会事業部





救急看護認定看護師の紹介

● 救急看護認定看護師の役割

初めまして、私は救急看護認定看護師の鈴木美恵子と申します。私は、交通事故に遭われたり、突然の病気や持病が悪化されて高度な医療が必要になった方が救急車で来院された時に一番初めに会う看護師です。私達は、救急隊から送られてくる情報から患者さんの状態を予測してあらゆる状態に対し迅速で的確な医療・看護を提供できるように準備を整えています。また、患者さんやご家族の不安や心配が少しでも無くなるように医師と看護師が協力してサポートします。そして、様々な疾患の発症から社会復帰されるまで支援を行わせていただいています。



救急看護認定看護師
鈴木 美恵子

● 地域に根差した 高度救命救急センターとして

当院は平成 28 年 4 月からドクターカーの運用が始まっています。ドクターカーとは医師・看護師を乗せて一刻も早く患者さんの元へ行き、医療と看護を提供します。

また、当院は新病院移転と同時に埼玉県で 2 番目の高度救命救急センターとなりました。高度な医療を提供できる病院として、私達は様々な分野の医師や多職種と連携をしています。加えて、平成 29 年 4 月からドクターヘリの受け入れを行っています。当院では隣接している埼玉県立小児医療センターと連携し合い、年齢問わず、いつでも受け入れが出来るように日々準備を整えています。

私は、このような変化の中でドクターカーシステム構築、高度な医療・看護が提供できるよう段階を踏んだ教育プログラムの構築を行いました。現在は、様々な疾患への知識と技術の向上への支援や救急科の医師やスタッフと協力し受け入れ体制の整備や見直しを行いながら迅速に対応できるようにしています。

● 今後の展望

新病院に移転してから、地域における救急医療の役割も大きく変化しました。そのような中で、様々なシステムの見直しや継続した教育環境の整備、多職種連携の強化を行いながら、一人でも多くの命を救うことが出来るように体制を整え、地域住民の皆様信頼される医療・看護が提供できる病院を目指していきたいと思えます。





取材・記事：福田真弓（看護部）

埼玉エリアに初出店！

博多華味鳥

水炊きもつ鍋鶏料理
さいたま新都心店
はなみどり



ポン酢へのこだわり

水炊きに欠かせないポン酢にもこだわりを感じました。鶏の旨味をさらに引き立ててくれます。



店内は、カウンター席とテーブル席があります。お一人様から宴会まで、様々なシーンで利用させて頂けそうです。



スープへのこだわり

新鮮な鶏の脚ガラのみを専用釜で炊き上げた、コクがあってさらりとした口当たりのスープ。スーと体にしみこむ逸品です♪



コラーゲン
ボール投入！



鶏団子
投入！！



親鳥のタタキ

炭の風味と歯ごたえがたまらない一品！
柚子胡椒を合わせて食べるとさらに
絶品な味わいに！！

これからの季節、ぜひ皆様もお鍋で心と体を温めて寒さを乗り切ってはいかがでしょうか！！

営業の ご案内

店名 博多華味鳥
(ハカタ ハナミドリ) さいたま新都心店
場所 JR さいたま新都心ビル 3F
JR さいたま新都心駅西口 徒歩 3 分
JR 埼京線 北与野駅 徒歩 8 分

営業時間 ランチ 11:00 ~ 14:00
(ラストオーダー 14:00)
ディナー 17:00 ~ 23:00
(ラストオーダー 22:00)
定休日 不定休日あり

患者さんの声にお答えします。

ご意見

自動支払機の横にテーブルを置いて頂けると、バッグからの財布や明細書の出し入れが容易に出来るので設置をお願いします。

お答えします

ご不便をお掛けして申し訳ございません。

早速、担当部署にて対応を検討し、自動支払機の前にテーブルを設置いたしました。

ご意見

清掃員の清掃の手順がおかしいです。グローブを付けたままで不潔な物を触ってから清潔な所を拭いており、清掃道具も使い回しです。感染の拡大に繋がります。清掃員の方への教育指導をお願いします。

お答えします

ご指摘を頂き有り難うございます。担当部署を通じて清掃業者の責任者へ、清掃の手順について改善を指示しました。ご指摘のとおり、基本に沿って清潔な個所から不潔な個所、またグローブは場所ごとに交換する事を徹底していきます。特に病院清掃は感染拡大を抑える役割を担っておりますので、再度教育し皆様方に安心して頂けますよう努めてまいります。

ご意見

自動販売機に麦茶を入れて頂くと助かります。カフェインを摂取したくない時に緑茶でなく麦茶を飲みたいです。

お答えします

ご不便をお掛けして申し訳ございません。

早速、担当部署に対応を依頼し、自動販売機にカフェインの少ない麦茶を追加いたしました。



さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。